

佐竹義昌先生追悼記念号に寄せて

経済学部長 島野 卓爾

本号は、去る4月25日逝去された学習院大学名誉教授佐竹義昌先生から私ども経済学部が受けた数々の学恩に感謝するとともに、先生が残された多くのご功績を追悼、記念する目的で編集されました。

佐竹先生は、昭和27年4月学習院大学経済学部助教としてご就任になられ、以降36年の長きにわたり、熱心に学生の教育・指導に尽力されるとともに、活発な研究活動を通じて、政経学部、経済学部設立以後は、経済学部ひいては学習院大学の発展のため大いに力を注がれました。たとえば昭和49年経済学部のなかに経営学科が増設されるや、先生は初代の経営学科主任教授として今日の経営学科発展の基礎固めに尽力されました。また、昭和52年4月から昭和54年3月まで経済学部長を勤められ、スタッフの充実をはかり、当時経済学部になかった大学院の創設に力を傾けられ、経営学研究科および経済学研究科の両大学院を設立されました。これらのご功績はきわめて大きく、現スタッフ一同深く感謝しているところであります。こうしたご功績にふさわしく、昭和62年には交通経済、とくに鉄道・道路運輸労働の実証的・理論的研究に対して安倍能成先生を記念する「安倍賞(学術賞)」を受賞し、昭和63年定年退職後の4月に学習院大学名誉教授の称号を授与されました。

佐竹義昌先生は交通経済論、とくに交通労働の問題について深い関心を寄せられ、「交通労働の生産性」(昭和37年)、「交通労働の研究」(昭和41年)をはじめ多数の著書や論文を発表されました。これらに対する学会での評価はきわめて高く、「交通労働の研究」では昭和41年度日本交通学会賞を受賞されました。こうした研究業績と先生の公正なお人柄から、先生は、昭和59年11月文部大臣より産業教育功労者として表彰されただけでなく、日本交通学会理事、副会長を歴任されました。先生は日本交通政策研究会のメンバーとしても活躍され、交通経済の理論的研究だけでなく、実態についての高い見識と政策判断によって多くの関係者に影響を与えられたと伺っております。先生は、学識経験者として建設省道路審議会専門委員、運輸省関東運輸局地方交通審議会会長代理、日本道路公団料金制度検討委員会委員、東京都東京港地区職業安定審議会委員、(財)道路経済研究所評議員などを勤められ、社会問題となっている交通問題の改善のために貢献されました。

大学設置基準の大綱化に伴い、いま大学は新しい時代に適応すべく改革を続けております。こうした重大な時期であれば、先生からも貴重なご助言を頂けたのではないかと考えますと、先生のあまりにも早いご逝去は、経済学部および学習院大学にとってなんともいってもまことに残念なことです。

(1992. 6. 15)